

2020年度事業報告

【事業に関する事項】 …… 詳細は機関誌『連珠世界』各号の記事参照

2020年度は、何と言っても新型コロナウイルスに振り回された1年でした。各地の連珠会が3月以降活動自粛に追い込まれ、緊急事態宣言が明けるまで連珠会を開催することができませんでした。そのため、名人戦の低段者予選が実施できず、名人戦1次予選の開催が変則的になりました。そんな中でもA級リーグは無事開催することができ、中山八段が見事挑戦権を獲得しました。挑戦手合いもコロナ対策を実施しての開催となり、中村茂名人が2勝1敗1分の成績で見事名人位を保持しました。これで中村名人は通算ちょうど30期目、永世名人と現役名人を両方保持するという偉業を継続しました。今年も引き続き中村名人を中心として連珠界は回ると考えられます。

昨年はコロナ対策として、マスクの着用、対局室の人数制限の実施を行いました。その結果、A級リーグの観戦ができなくなったのは残念でしたが、その代わりWeb配信が定着したのは良かったことと考えられます。また、昨年はスマホアプリ『五目クエスト』と連動した普及活動を新たに始めました。五目クエストの級位を実際の級と同じとみなし、各種大会に出場が可能となりましたし、初段位についても認め、希望者には免状も発行することでネットとリアルが融合していくきっかけとなりました。

SNS等インターネットを通じて引き続きアピールも仕掛けており、徐々に浸透していると思われます。コロナ禍で在宅が増えたことを逆にチャンスととらえ、新しい仕掛けを今後増やしていきたいと考えています。ご協力いただいた多くの役員・会員の皆様に改めて御礼申し上げます。

一方で、日本連珠社『定款』には第3条事業目的で明記されている「連珠の普及に沿った国際親善」があり、事業展開の範囲に「海外」も含まれています。残念ながら昨年度はコロナの影響ですべての海外棋戦が中止・規模縮小に追い込まれました。その中でもユース大会はネットで開催され、日本からも参加したことは意義があったと思います。これからの連珠のあり方も考えさせられる出来事だったと言えるでしょう。

また、各地域で連珠公認指導員を中心として、公民館や老人施設や児童館、小学校・中学校などで連珠の普及という【公益事業展開】を積極的に継続していく予定であり、日本連珠社としても引き続き全面的にバックアップしていきたいと考えております。

以上の事項や各種の事業活動については、機関誌『連珠世界』に毎号いろいろな角度から詳報されています。

【総会に関する事項】

(1) 定時会員総会

- ・2020年7月4日(日)13:30～15:30 於：江東区芭蕉記念館2階和室
- ・出席会員数81名(うち委任状80名、会員総数109名、出席率78%)
- ・議長には河村典彦氏が選ばれ、書記に河村典彦氏、岡部寛氏、林昭一氏の3名を指名した。定款第21条に従い議事録署名人には議長本人の他、岡部氏・林氏の2名を推薦し、満場一致で承認された。
- ・2019年度の事業報告について、議決承認された事業報告文を河村理事長が簡単に説明した。
- ・2019年度の財務諸表等について、亀井監事より処理が適切であったことが報告され、議案書通り賛成多数で承認された。
- ・2020年度事業計画と収支予算案について内容を河村理事長が簡単に説明した。
- ・議事録を全正会員(特別会員・家族正会員を含む、以下同じ)に配布し、議事決議情報を機関誌『連珠世界』2020年8月号に掲載し、2019年度事業報告・収支決算、2020年度事業計画・収支予算案、役員の選任、他、全議案が関係法令の賛成数に達していたので、議事詳報を割愛します。

2020年度事業報告

【理事会に関する事項】

- (1) 第1回理事会（定款第38条決議の省略） 2020年4月20日(月)～同5月3日(日)
 - ・出席役員 理事13名「同意書」提出、監事2名全員「確認書」提出
 - ・議事録作成者：河村理事長
 - ・第3号議案で事務局を兵庫県尼崎市に移転する事が承認、決議された。
 - ・第5号議案で特別表彰候補者を久保出美氏とすることが確認された。
 - ・第6号議案で新型コロナウイルス対策として岡部理事を中心として案を作成し、適宜連珠社HPに掲載していくことが承認された。
 - ・議事録を全役員に配布した。主要議案が、会員総会議案「2019年度事業報告・財務諸表等」に絞られていたため、議事詳細を割愛します。
- (2) 第2回理事会 2020年7月4日(土)10:30～15:40（途中昼食休憩と定時会員総会開催のため、12時30分～15時30分迄中断） 於：江東区芭蕉記念館2階和室
 - ・出席役員 理事7名（理事総数13名）、監事2名（監事総数2名）
 - ・議長：河村理事長
 - ・書記：河村理事長・岡部理事・林理事、議事録作成者：河村理事長、議事録署名：河村理事長、監事2名
 - ・第5号議案で、連珠社運営体制の見直しを行った。
 - ・第7号議案で、連珠世界の著作権について検討を行った。
 - ・第8号議案で、連珠普及のための方策提案の検討を行った。
 - ・議事録を全役員（理事13名・監事2名）、に後日配布し、議事決議情報を機関誌『連珠世界』2020年8月号に掲載しているため、議事詳細を割愛します。
- (3) 第3回理事会 2020年10月25日(日)13:00～15:30 於：森下文化センター
 - ・出席役員 理事10名（理事総数13名）、監事1名（監事総数2名）
 - ・議長：河村理事長
 - ・書記：河村理事長・岡部理事・林理事、議事録作成者：河村理事長、議事録署名：河村理事長、出席監事1名
 - ・第1号議案で昇入段規定の見直しが検討された。
 - ・第2号議案で連珠世界記事の著作権について検討され、連珠世界ホームページへの二次利用のやり方について議論し、合意した。
 - ・第3号議案でA級リーグの日程について検討し、やむを得ない事情がある場合に事前対局を認めることを決定した。
 - ・議事録を全役員（理事13名・監事2名）、に後日配布し、議事決議情報を機関誌『連珠世界』2020年12月号に掲載しているため、議事詳細を割愛します。
- (4) 第4回理事会（定款第38条決議の省略） 2021年2月22日(月)～同3月1日(月)
 - ・出席役員 理事13名全員「同意書」提出、監事2名全員「確認書」提出
 - ・議事録作成者：河村理事長
 - ・議事録を全役員（理事13名・監事2名）に配布した。前年度とほぼ同内容の2021年度事業計画・収支予算案他の議事決議情報を日本連珠社ホームページに掲載するため、議事詳細を割愛します。

【委員会活動報告に関する事項】

- (1) 総務委員会
 - ・名人推戴状・各段位免状発行、五目クレスト実績による級位認定書の発行を行った。
 - ・会員名簿管理、機関誌送付先管理、入会・退会者管理、盤罫紙発送手配を行った。
 - ・事務局移転とそれに伴う移転届け等の事務処理ならびに内閣府への活動実績・活動計画提出資料の登録を行った。

2020年度事業報告

- ・総会案内・会員名簿・会員証発送、昇入段者・新規会員、寄付入金者の発表を行った。
 - ・ホームページからの問い合わせの対応を行った。
- (2) 普及推進委員会
- ・コロナ禍で会場が確保できず2回休止したが、東京の拠点として東京連珠会を毎月実施した。2021年3月で231回を数える。
 - ・2018年度に作成した「級位認定規定、級位認定ガイドライン」を普及活動の中で活用した。
 - ・全国各地で、定例会をはじめ公式戦を行うことにより、連珠の普及活動に努めた。
 - ・各地区で連珠公認指導員を中心に支部や会員が独自に、女流棋士育成目的のペア戦、ミニ大会や対抗戦等を企画実施するなど、積極的に女性や老人福祉施設や少年・児童たちへの連珠指導ボランティア活動を継続実施した。また、囲碁将棋サロン、ボードゲームカフェに訪問し指導対局などを通じて宣伝を行い、知的文化の向上に寄与貢献した。
 - ・他競技の愛好家との交流を積極的に行ない、シモキタ名人戦をはじめとする各種イベントへ出展し、普及推進につなげた。
 - ・全国各地で自治体・自治会などが主催するイベントに出展し連珠の認知度をアップさせた。
 - ・小学校の土曜教室、クラブ活動で連珠教室を開催し普及推進につなげた。
 - ・SNS上で詰め連珠他の情報発信を行い、「連珠」の認知度を上げた。
 - ・活動が制限される中で桐生まちなかテレビ「アンペア-のシュミ1は公式ルールの五目並べ連珠編」に生出演。後日YouTubeに動画配信。
 - ・普及活動を連珠世界誌で報告した。
 - ・五目クエストで連珠社公認の級位認定を取得できるように、級位認定規定を改定した。
- (3) 財務委員会
- ・日々の入出金を管理すると共に、収支決算書及び財務諸表を作成した。一方、より緻密な財務管理のため、2021年度予算(案)も過去のデータ分析からさらに現実的な予算編成を行なった。
 - ・収支状況を常に把握し、遅滞なく事業活動を推進させることができた。
 - ・各委員会活動の精算や理事会、総会、名人戦の精算を遅滞なく行った。
- (4) 広報委員会
- ・有志の協力を得て、名人戦五番勝負の中継を行なった。
 - ・名人戦等の開催にあたり、マスコミ、他競技、桑名七盤勝負などの関係者と連絡を取り、取材対応、広報活動を行なった。
 - ・オンライン国際大会の広報を行なった。
 - ・Facebook、Twitterでの情報提供を行なった。
 - ・「シモキタ名人戦」をはじめとする各種イベントへ出展した。
- (5) 国際委員会
- ・RIF会長のヘニングソン氏と連携し、連珠の諸問題について議論し、解決を図った。
 - ・新型コロナウイルスの影響と対応について各国のキーマンと意見交換を実施した。
- (6) 機関誌編集委員会
- ・機関誌「連珠世界」の定期発行を守り、778号から789号まで遅滞なく発行した。
 - ・事務局と連携し、総会・理事会情報、連珠普及活動情報などを掲載し、公益事業目的である機関誌としての役割を果たした。
 - ・一般者から【公益事業活動】として理解してもらいやすい、女性や老人福祉施設や少年・児童たちへの連珠指導ボランティア記事を掲載した。
- (7) メディア委員会
- ・連珠社ホームページを維持するとともに改善・充実を行った。具体的には、公開情報や規定等の最新版維持、名人戦A級リーグ戦の速報を始めとする主要棋戦の結果報告、各種棋戦やイベントのカレンダー形式での表示、入会促進情報の提供や「連珠世界」誌最新号の紹介、詰連珠問題の毎週提供、過去に掲載された連珠講座の転載、連珠関連古書情報の充実、新型コロナ対応方針の掲載、等を行った。

2020年度事業報告

- ・組織としての連絡体制を支援するメール環境の維持・充実を行った。具体的には、メーリングリストや委員会メールアドレスの更新・維持を行った。

(8) 珠規審議委員会

- ・四珠交替打ちの実施状況を確認し、新たな開局規定の必要性を検討した。
- ・日々のメールやSNSでの連絡において、各国の棋士と意見交換を行なった。

(9) 段位審査委員会

- ・昇入段申請があり次第、日本連珠社【昇入段規定】に基づき、遅滞なく段免許状の発行と機関誌上での発表を行った。
2020年度に於いては、理事会で審議すべき例外事案の発生はなかった。
- ・2020年度昇入段者数は下表の通り。近年、昇入段申請の減少傾向が続いていたが、2020年度は前年度より2名の増加申請があり、遅滞なく承認した。
- ・直近5年度の〔段位別昇入段者数の推移〕については下表の通りとなっている。

	永世 名人	九段	八段	七段	六段	五段	四段	三段	二段	初段	合計
2020年度		0	0	0	0	1	3	1	5	10	20
2019年度	1	0	1	1	1	2	1	2	2	7	18
2018年度		0	0	1	0	2	1	0	1	4	9
2017年度		0	1	1	1	1	3	1	0	3	11
2016年度		0	1	2	4	2	2	5	2	3	21

(10) 名人戦運営委員会

- ・第58期名人戦は、コロナ禍により各地区予選が遅延したが無事7月には10名の代表選手を選出できた。
- ・挑戦者決定リーグ戦を、2020年9月に焼津市の<西焼津セントラルホテル>で実施した。近年観戦者が増加していたがこの年は一切の観戦をお断りしインターネットによる中継に努めた。中継にはコマラボさんのご協力を得た。
また、同名人位挑戦手合い5番勝負を、委嘱した名人戦運営委員の協力で東京都で実施し、中村名人が2勝1敗1分で挑戦者中山智晴八段を破り、名人位通算30期となった。

(11) 記録委員会

- ・国内の公式棋戦で委員会に報告のあった結果をRIF（国際連珠連盟）に報告して、国際レーティングに反映させた。
- ・九州地区の取りまとめを新たに河野高久五段にお願いした。

(12) 詰連珠通信戦委員会

- ・通信戦：開局規定を、現行の四珠交替打ちの変形に変更して、第108回、第109回の通信戦を実施。参加者の増加を目指したが不発に終わった。第106回、第107回の講評を連珠世界に掲載した。
- ・詰連珠：2019年に発表された全ての詰連珠関連の創作物を対象に、第14回詰連珠大賞の選定を行い、誌上表彰及び大賞・作品賞に対しカップの呈賞を行った。第45回四追い作品コンクール、第41回限珠案コンクールを実施。また、月例詰連珠、天狗道場、特別昇入段テストを実施した。

(13) 特別表彰制度

- ・2020年度は、久保出美氏（大阪府門真市）を選出し、特別表彰記念品と表彰状の手配を遅滞なく実行した。